



ふじみ

第 154 号

平成30年4月1日

発行人 社会福祉法人みちのく協会
責任者 理事長 工藤和子
施設 特別養護老人ホーム富士見
ケアハウスアーベイン八幡平
松尾デイサービスセンター
介護相談所陽だまり
(富士見特別養護老人ホーム介護事業所)
(地域密着型介護老人福祉施設はちから里)

岩手県八幡平市松尾寄木第11地割13番地1
電話 0195(78)2455(代) FAX 0195(78)2467
E-mail fujimiso@rnac.ne.jp
URL http://www.rnac.ne.jp/~urbane/

題字：福田 常雄 氏

「新年度を迎えて」

社会福祉法人みちのく協会

理事長 工藤 和子

今年の冬は、例年になく降雪量も多く、厳しい寒さが続きました。それでも、三月には時ならぬ暖かい日が続き、例年よりも早い春の訪れとなりました。

今、こうして新年度を迎え、気持ちを新たに前に進もうと思うとき、日頃より特別養護老人ホーム富士見荘をはじめ当法人の各事業所をご利用いただいている皆さま、そのご家族、また、地域の皆さまなど多くの関係の皆さま方から温かいお力添えがあったればこそ今日があると痛感し、あらためて深く感謝を申し上げます。

さて、当法人は、国が推し進めている高齢者が住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポート及びサービスを受けられるよう市区町村が中

心となり「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を包括的に体制整備していくという「地域包括ケアシステム」の一端を担っておりますが、国の方針は、更に進んで社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえて、既存の制度や高齢・障害・保育といった分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受けて」という関係をこえて、地域で支え合う社会Ⅱ地域共生社会Ⅱの実現へと向かっております。

このような情勢の変化の中での社会福祉法人としての役割は、多様な福祉ニーズに幅広く柔軟に対応し、地域におけるセーフティネットとして機能するということに尽きると思います。当法人におきましても、活動の中心である八幡平市全体の中で、求められる福祉サービスは何か。また、どのように取り組み、どのように対応するかなど考えるべき課題が目の前にあります。

当法人の基本理念である「愛と献身」をもうひとつの柱として、やさしく、互いに思いやる気持ちを大切にしながら安心して暮らせる施設づくりや事業の展開に、役職員が心をひとつにし、また、社会福祉の灯を高く掲げて、多くの皆さまのご期待に添えるよう努めて参ります。

今後とも、当みちのく協会に対する厳しいお叱り、あたたかいご支援をよろしくおねがいたします。



特別養護老人ホーム

富士見荘

☎(0195) 78-2455

もはやプロの芸人

一月十七日、新春恒例の「初笑い会」が新春カラオケ大会をプラスして開催されました。昨年もその舞には驚かされましたが、もはや芸術と言っても過言ではありません。そのユーモラスな踊りとメイクに会場は、笑いの渦に。その後行われた選抜カラオケ大会では、真剣な表情で歌う姿に、手拍子での応援が巻き起こり、会場が感動に包まれました。



布アート教室 くちょうど一年く

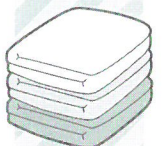
二月三日、ちょうど昨年の二月から始まった「布アート」教室。一週間後には三月の桃の節句を迎えることもあり、「お雛さまとお内裏さまのちぎり絵」に挑戦していただきました。少し豪華な布を選んで、紙に張り付けていきます。台紙の通りに切って、飾りの紐を貼り、額縁に入れると不思議なんですよ。とても上品できれいな作品が仕上がりました。満足のいく出来栄に笑顔でハイ、チーズ。



第一生命様より

タオルの寄贈

雨の日も風の日も、はたまた吹雪の日も足しく通っていたいただいている第一生命の藤原様(右から二人目)からのお口添えもあり第一生命労働組合・盛岡営業職支部の皆さまより、二〇六本もの新品のタオルを頂戴しました。当ホームに通われているセールスレディーさんならではの實用向けのプレゼントをいただきました。女性ならではの
お心遣いは、さすがですね。



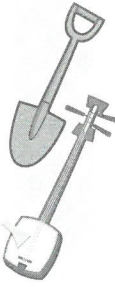
地域密着型介護老人福祉施設

はらからの里

☎(0195) 68-7880

慰問の紹介

一月はスコップ三味線友の会の皆様が慰問に来てくれました。



スコップを三味線のように上手に演奏し、それに合わせて歌や踊りを披露していただきました。入居者の方も一緒に歌を口ずさみながら、手拍子をされ、全ての演奏が終わると、入居者の方からたたくさんのアンコールの音が聴かれました。最後のアンコールはドンパン節。入居者全員で大きな声で歌いました。

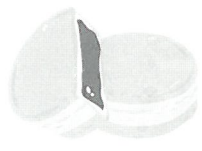
演奏が終わった後、スコップ三味線友の会の皆様から、入居者の方々に実際にスコップを演奏させてもらう機会も設けていただき、入居者の方も皆笑顔で「スコップでここまで出来るのは凄い」と、驚かされている様子でした。楽しいひと時を過ごす事が出来ました。



おやき作り

一月の大寒に入ってからより一層寒さが厳しくなった頃、入居者の方々に協力してもらい、手作りおやきを作って食べました。始めは皆様「出来ない」と話されていましたが、いざ作り始めると上手に生地を伸ばしたり、あんこを上手に包んだり、なかなかの腕前です！

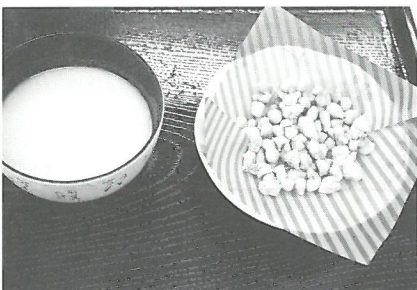
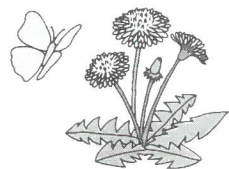
女性の入居者の方たちは「昔はよく作ったものだ」と、昔を思い出し笑顔で作られていました。焼くのは職員が担当。焼いていると香ばしい香りが居室いっぱいになり、焼き上がるのを今か今かと待っていました。焼き立ての『熱々のおやき』を、皆様で美味しくいただきました。



甘酒とおかきのお振舞い

二月と言えば節分ですが、はらからの里では豆まきではなく、甘酒とおかきで立春を迎えました。甘酒とおかきは栄養士お手製。入居者の方は「美味しい。」「もっと食べたい。飲みたい。」とお替りしていただいています。甘酒のほのかな甘みと、おかきのしょっぱさが絶妙なバランスで良いと、入居者の方から大盛況でした。次回は、何を振舞いし、楽しんでいただこうかと、ワクワクしています。

これからも、皆様の喜んで頂けるおもてなしをたくさん行って参りたいと思います。



松尾デイサービスセンターだより

☎(0195) 78-3720

柔らかな日差しを感じる今日この頃。この季節は、別れと出会いがあり、残念だったり期待をしたりするもので、デイサービスもご多分に漏れず。そして、新しい年、新しい年度を迎えるたびに目標を掲げますが、それが方針であったり事業計画であったりするわけです。

三十年代は介護報酬が〇・五四%アップしたと言われておりますが、通所介護においては予定通り減額されました。利用者にとってはとても良いことなのですが、受け取る側とすれば泣きが入るわけです。それで経営できなければ、事業するなというお上のお達しでしょうから甘んじて受け入れるしかありません。

そこで三十年代は新たにどのようなサービスが提供できるのか?と検討した結果、国は介護ロボットであるとか情報技術を活用して負担の軽減や関係者との情報共有による連携強化を推進しており、松尾デイは情報技術を活用して行こうと準備しております。これが進められれば、PC、スマホ、タブレットをお持ちであれば自宅に居ながらデイの活動内容をご家族が確認でき、そして紙ベースでの記録を最低限にして、職員の負担軽減にもつなげようとしています。(導入時の抵抗はあるかもしれませんが、汗) まだまだ完成されたものではありませんが、利用しながら進化していくことでしょ。

これからの松尾デイにご期待ください。

節分行事

二十四節気の一つ、立春の前日は節分にあたりますね。今年の節分行事にまた、可愛らしいお客様にきて頂きました。素敵な着物やドレスで踊りやダンスを披露して頂き、利用者の皆さんも涙を流して喜んでいました。その後の豆まきでは男の子達が大きな鬼に力いっぱい豆を投げつけ、さすがの鬼役もたじろいで逃げ回っていました。

節分は、季節の変わり目の意味があり一年の無病息災を願います。デイサービスに通われる皆様も健やかに過ごして頂けるよう職員一同で支援いたします。寒い中でしたが柏台保育所、寄木保育所の皆さん、先生方ありがとうございました。

また帷子地区「スコップ三味線友の会」の皆様にも素晴らしい演技を披露して頂き、ありがとうございました。



輪投げ大会

三月四日～三月十日まで、デイサービスセンター恒例の輪投げ大会が行われました。

今回の輪投げ大会は、デイサービスの利用者人数が多くなった為、一人一回(九本)になってしまいました。皆さん高得点を出していた様でした。なんと、一位から三位まで点数の差が、一点ずつというハイレベルな戦いでした。入賞された皆様おめでとうございます。入賞された利用者様には豪華景品が贈られました。中身が気になります。中身を知りたい方は次回の大会で、入賞出来るように皆様頑張ってみてください。

ちなみに、職員全員での輪投げ大会を行ったら、誰が一位になるのでしょうか? どうか職員全員で競ってみたいものです。優勝者には所長のポケットマネーから豪華景品くれるかな?

リゾート型ケアハウス
アーベイン八幡平

☎(0195)
78-2710

「新年度を迎えて」

ケアハウスアーベイン八幡平

施設長 箱石 裕

例年になく気温も厳しく、又降雪量も多かった冬が遠のき、花開く四月を迎え、新たな気持ちでこれからを考えながらも、昨日までをふりかえってみますと、あれほど気温の低い日が続き、インフルエンザの大流行があったにもかかわらず、インフルエンザにかかることなく、また、周囲を雪にかこまれ、ともすればうっとうしくなり、部屋にとじこもりがちになりそうの中で、趣味活動や買物などにいそしむ入居の皆様の様子を見るにつけ、そのバイタリティーに感服し、そして、何ごともなく過ごしていただきたいことが何よりと思っておこされます。

平成三十年度におきましても「より住みやすいアーベイン八幡平を目ざして」を柱に様々な事業に取り組んでいくことにし、その事業計画と予算が先般開催された理事会において決定されたところです。

アーベイン八幡平は、入居の皆様の日常生活をサポートすることを基本とし、必要に応じて介護保険サ-

ビスを提供することを主眼にしていますから、様々な事業に取り組むといつても特に目新しいものがある、ということではなく、ひとつひとつの事業をていねいに、そして、皆様に喜んでいただけるように工夫しつづ取り組んでいくことが大切と考えております。

日常的には、心から楽しんでいただけるような食事の提供と快適な入浴環境の整備、月毎には、定期的な買物ツアーや通院送迎、合唱セミナーやカラオケ、コーラスといった音楽活動、布アートや折り紙といった趣味創作活動にトランプ遊びなどの娯楽活動を加え、そして、一寸したほろ酔い気分を味わっていたけるようにと「居酒屋の日」を組み合わせています。さらに、季節行事としては、花見、夏祭り、紅葉狩り、クリスマス、節分と続きますが、ドライブ行事と組み合わせたり、保育園児を招待したり、毎年のこととはいってもより楽しんでいただけるように、工夫が必要になります。

そして、忘れてならないのが清潔感あふれる生活環境の整備で、視覚的にも体感的にも「きれいだなア」と感じていただけるような施設づくりに努めていきたいと考えております。今後とも、あたたかいご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

「老人ホームという概念」

皆様方の考える、老人ホームとはどのような老人ホームでしょうか。ケアハウスアーベイン八幡平は軽費老人ホームの中に位置づけられています。

アーベイン八幡平では、約月一回「居酒屋」と言うものを開催しております。これは夕食時に「おつまみ」と「アルコール類等」を安価な料金で提供し入居の皆様へ楽しんでいただければということとスタートした企画です。

以前、盛岡市のある酒屋さんへ居酒屋で提供させていただく日本酒を買いに行ったところ、酒屋の女性店主より「老人ホームでお酒を飲むことができますんですか？」と聞かれたことがあります。老人ホームといえ「飲酒」はできないというイメージが強くあるように思われているのでしょうか。

アーベイン八幡平では、月一回の居酒屋はあるのですがお酒の自動販売機も設置しているのでもいつでも「アルコール類」を購入することが可能です。また夕食の時に少しお酒を飲まれてから食堂まで来られる方も居られるようです。

最近では、どうしても「カラオケ？

スナック？」に行きたいという要望もあり、玄関が閉まるまでにタクシーで帰ってくるというお約束で夕食を食べるすぐに出かけられる方もいるとかいいたか……。

ただし、他の入居者の方々へ迷惑をかけないということは守っていたかなければなりません、また医師より飲酒を止められている入居者にとっては辛い思いをさせてしまっているのも事実です。

アーベイン八幡平では、自家用車を運転されたり、外出や外泊・その他旅行に行かれたりある程度自由に過ごすことのできる数少ない福祉サービスではないかと感じております。

今後、老人ホームという概念をどこまで崩していけるかが、皆様から選んでいただける施設になっていくのではないかと感じております。

(遠藤)



愛

筆洗

題字 関口作治氏

社会福祉法人 みるのく協会 基本理念

社会福祉法人みるのく協会の基本理念は「愛と献身」です。利用者一人ひとりの気持ちを大切に、心をこめた介護をいたします。

富士見荘の動き

1	10	新春初お笑い会
	25	布アート教室 (羽子板)
2	22	布アート教室 (お雛さま)
	23	富士見荘勉強会
3	22	春彼岸供養
	29	ボランティア・陽だまり研修会

富士見荘利用者状況

(平成30年3月1日現在)

市町村	男	女	計
八幡平市	15	54	69
岩手町	0	4	4
その他市町村	0	1	1
合計	15	59	74

富士見荘入退居者状況

入居者	1月			2月			3月		
	入居	退居	死亡	入居	退居	死亡	入居	退居	死亡
	0	0	(0)	1	1	(1)	1	1	(0)

※入居()内は再入居。退居()内は死亡。

富士見荘短期入所生活介護

市町村	1月	2月	3月
八幡平市	237	223	267
他市町村	21	28	27
合計	258	251	294

配食サービス

人数	1月	2月	3月
利用者数	319	273	300



編集後記

今年の冬は、二・三年続いた雪の降らない暖冬から一変して、降雪量の多い、厳しい冬となりました。三月初旬、八幡平の麓にある柏台の地は駐車場の脇に盛り上げられた雪が三メートルもあり、車が何台駐車しているか分からないほどでした。下旬を迎える頃までには、暴風雨が吹き荒れたり、夏を思わせるような暖かい日差しにてらされて、あつという間に土が顔を出さず、春の景色に一変しました。四季の移り変わりのはっきりしている岩手の、雪国に住むということを実感しています。厳しい冬を乗り越えるからこそ「春」を迎える喜びと躍動感が内からフツフツと沸いてきます。さあ、一年の始まりです。今年はどうな一年になることやら……。

(松尾)